

The logo graphic of Fukui Bank, consisting of two white triangles pointing towards each other to form a larger, irregular shape, set against a dark blue background.

FUKUI BANK

個人投資家さま向け 会社説明会

2024.8

[東証プライム 証券コード：8362]

本日の内容

INDEX

1

会社概要

2

ビジョン

3

経営計画

4

企業価値向上に向けた当行の取組み

5

株主還元

1

会社概要





- 名称／株式会社 福井銀行
- 所在地／福井県福井市
- 設立／1899年12月19日
- 資本金／179億65百万円
- 従業員数／1,258名
(2024年3月31日現在)

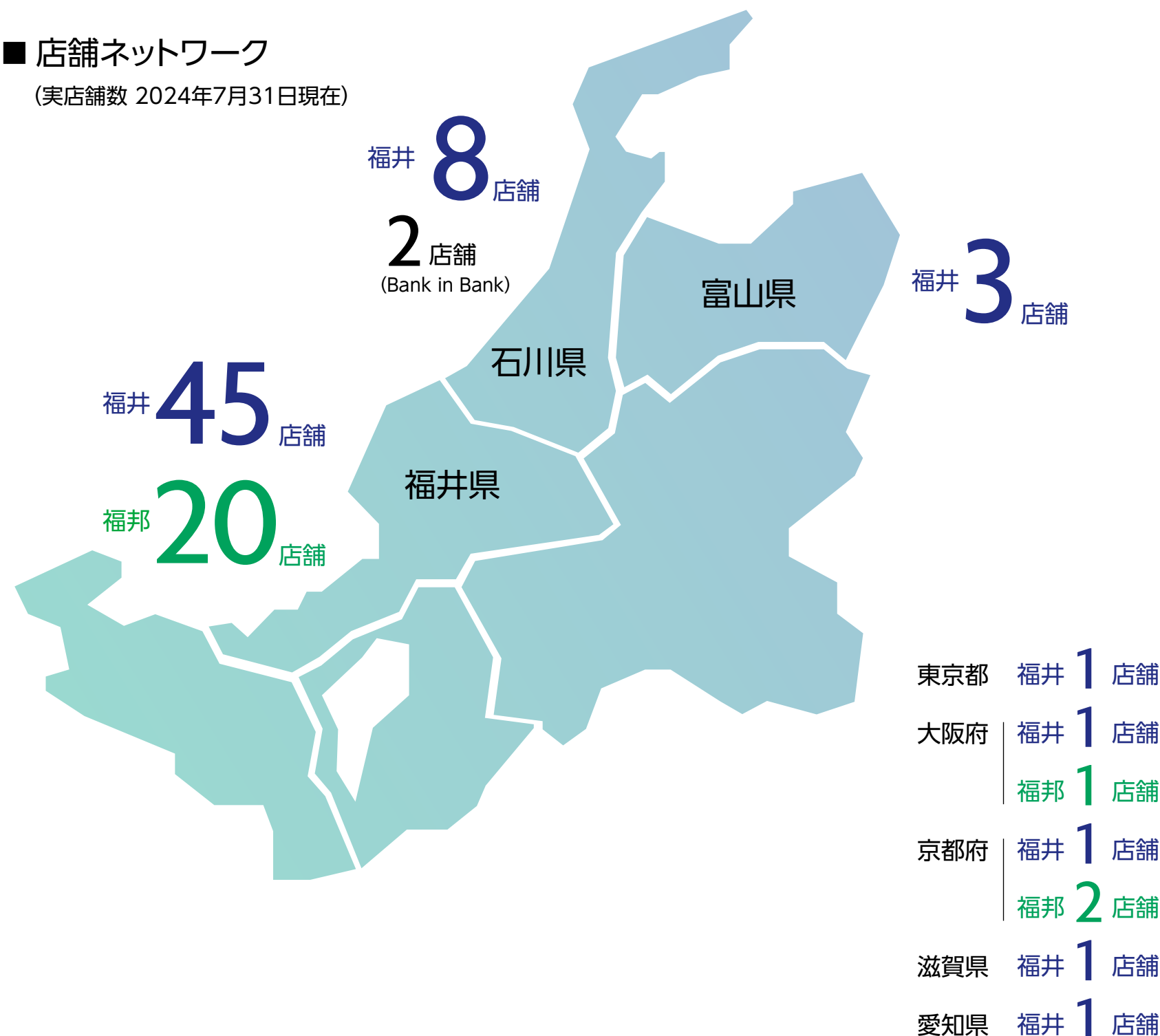


Fukuho Bank

- 名称／株式会社 福邦銀行
- 所在地／福井県福井市
- 設立／1943年11月5日
- 資本金／98億円
- 従業員数／326名
(2024年3月31日現在)

■ 店舗ネットワーク

(実店舗数 2024年7月31日現在)





経営資源 (ヒト・モノ・カネ・情報) をグループ内で最大限活用

預金等

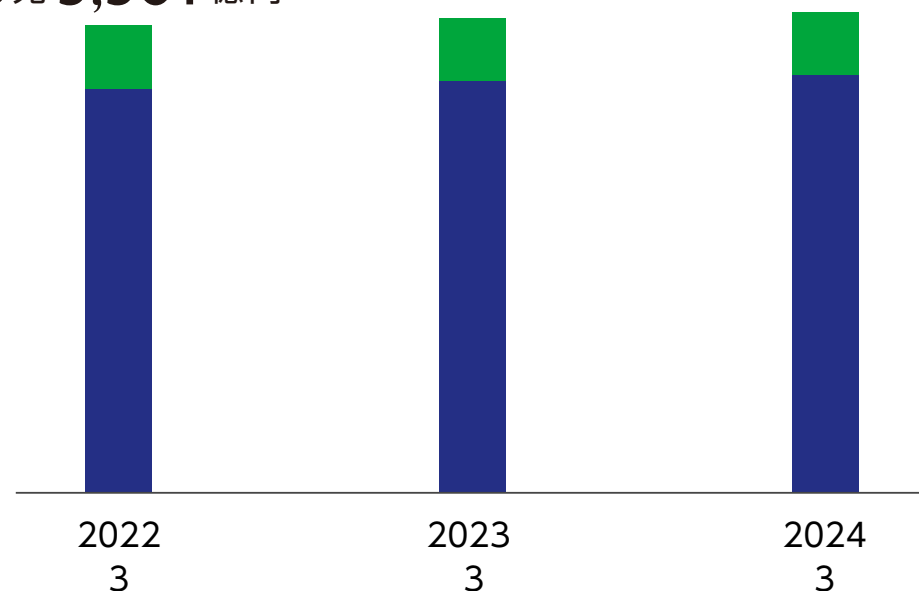
(福井・福邦 2行合算)

福井県内の
預金シェア

2行合算
55.9%

2024
3

3兆 3,301 億円 3兆 3,801 億円 3兆 4,216 億円



貸出金

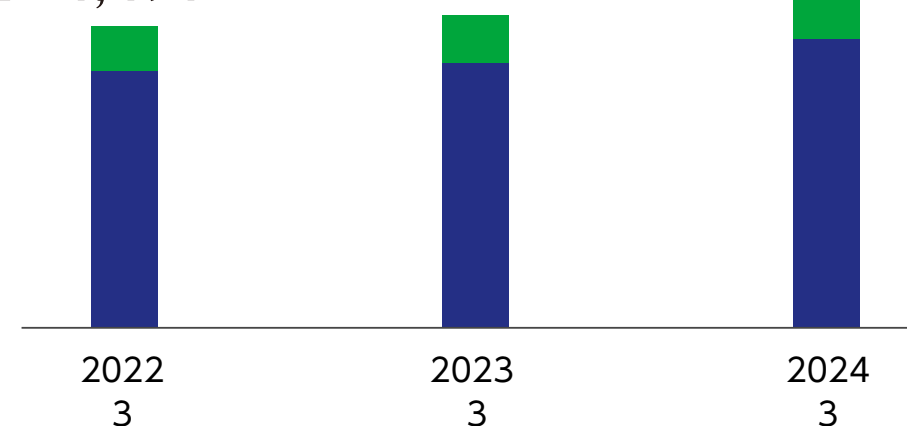
(福井・福邦 2行合算)

福井県内の
貸出金シェア

2行合算
50.3%

2024
3

2兆 1,491 億円 2兆 2,265 億円 2兆 4,349 億円



2

ビジョン



Fプロジェクト Vision 2032

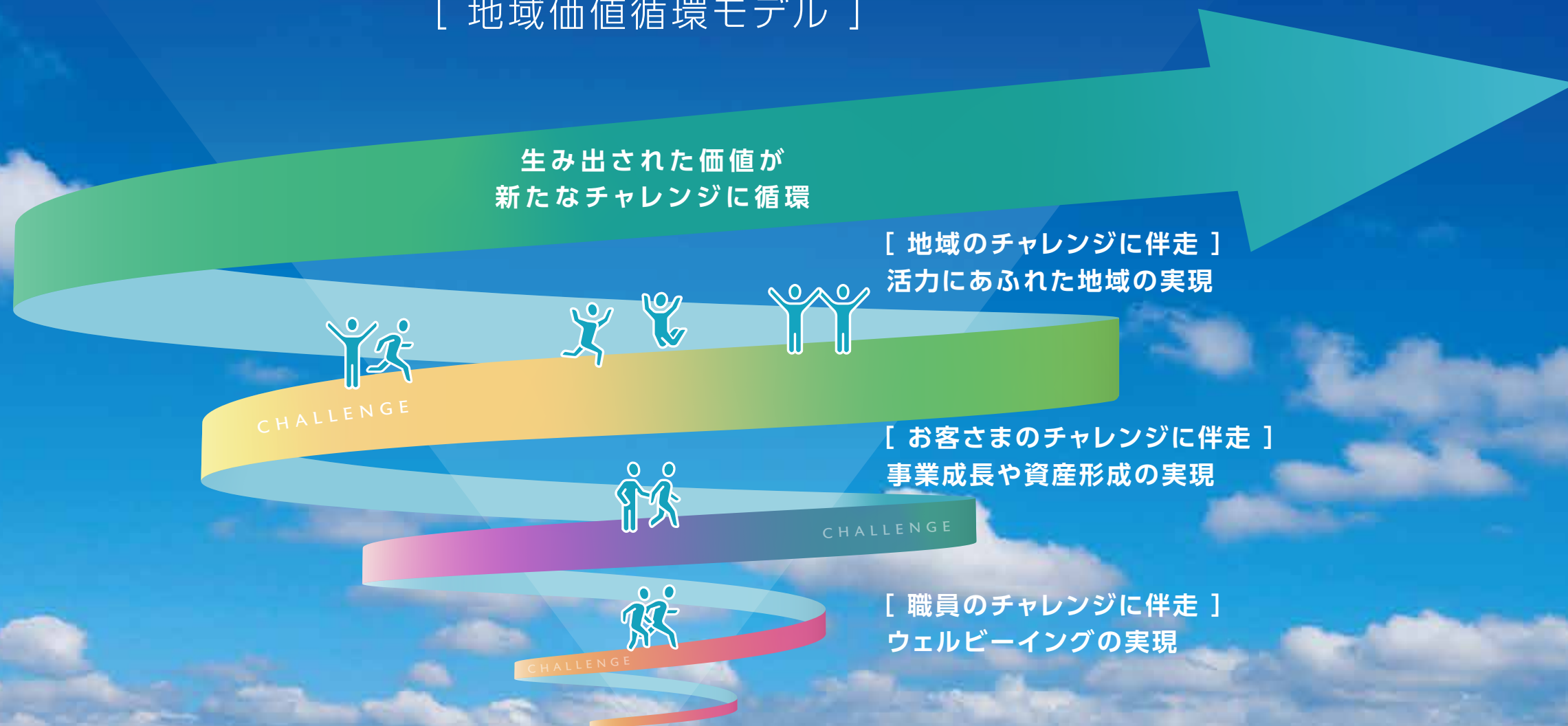
(2022.4-2032.3)

私たちは 職員・お客さまの多様なチャレンジに伴走し
「地域価値循環モデル」を実現します

Slogan

チャレンジ、いいね。

[地域価値循環モデル]



職員、お客さま、地域のチャレンジに伴走した先に、
4つのゴールを目指します。



ウェルビーイングを
実感する
職員の比率

100%

1人あたりの
福井県民所得[※]

+100万円

福井県活力人口[※]

100万人

連結当期純利益

100億円

※ 県民所得:個人や企業の所得を表す
県民経済全体の所得のこと

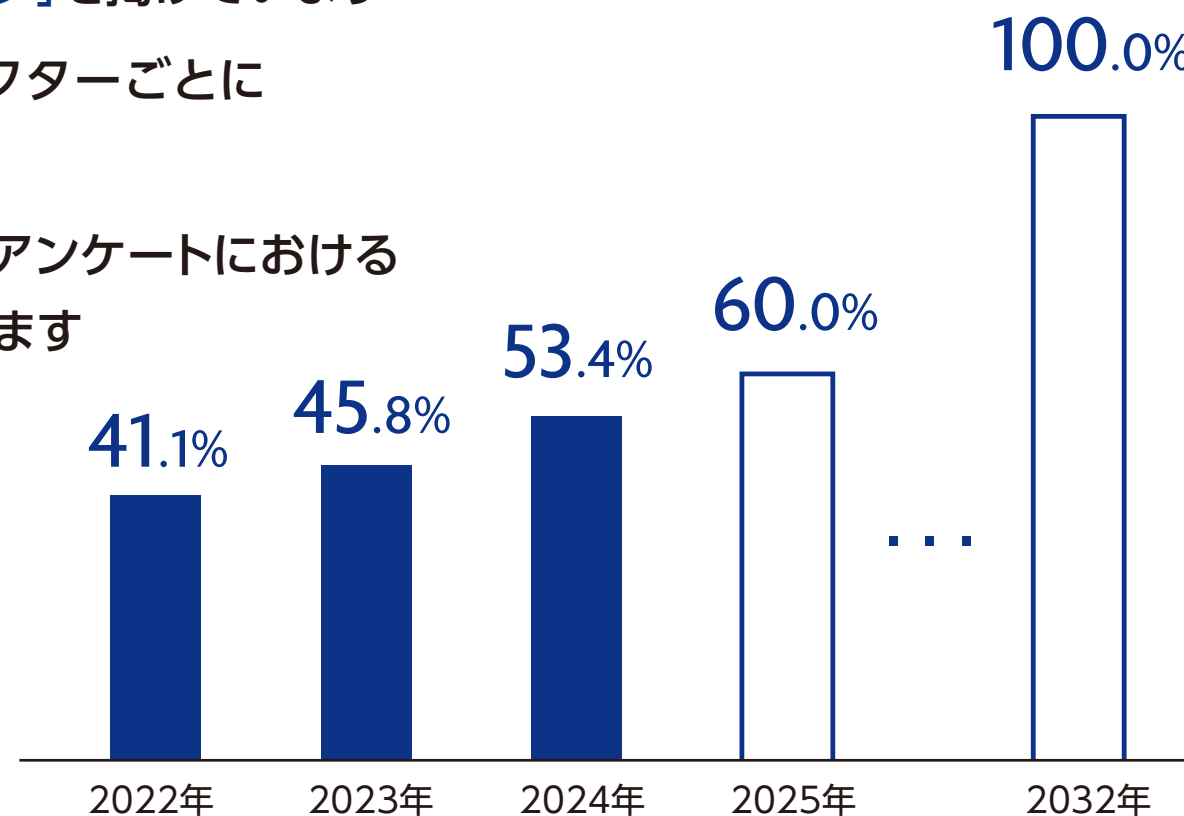
※ 活力人口:「福井県長期ビジョン」で基本目標に掲げる
人口の考え方。交流人口・関係人口を定住人口に換算し、
定住人口と足し合わせた人数のこと

チャレンジゴール

ウェルビーイングを実感する職員の比率 100%

職員が心身ともに健康で社会的にも幸福であることが地域の成長にとっても企業の成長にとっても不可欠と位置づけ ウェルビーイング経営に取り組んでいます

- Fプロジェクトでは職員がチャレンジを通して成長しながら働きがいを感じるという「**グロースゾーンで感じるウェルビーイング**」を掲げています
- ウェルビーイングを構成する4つのキーファクターごとに具体的な取り組みを実施しています
- 年1回全役職員向けに行うウェルビーイングのアンケートにおけるポジティブ回答100%を目指して取り組んでいます



ウェルビーイングを実感する職員の比率

チャレンジゴール

1人あたりの福井県民所得 + 100万円

福井県内シェア50%を超える県内最大の金融グループとして中期経営計画に基づく取組みを通じて主体的にお客さまの事業成長や資産形成を実現することで県民所得の増加につなげます

■ 預金・貸出金シェア

(2行合算) (2024年3月末時点)

福井県内の預金シェア

55.9%

福井県内の貸出金シェア

50.3%

■ 「日本の長期的な成長率は中長期的に実質2%名目3%程度の成長」

内閣府：中長期の経済財政に関する試算(2024年1月)

2022年(実績)		2032年(推計)	
県民所得	2兆4,824億円	県民所得	約3兆円 +5,000億円
総人口	76万人	総人口	70万人
1人あたり県民所得※	326万円	1人あたり県民所得※	430万円 +100万円

※1人あたり県民所得 福井県は全国3位(2020年)

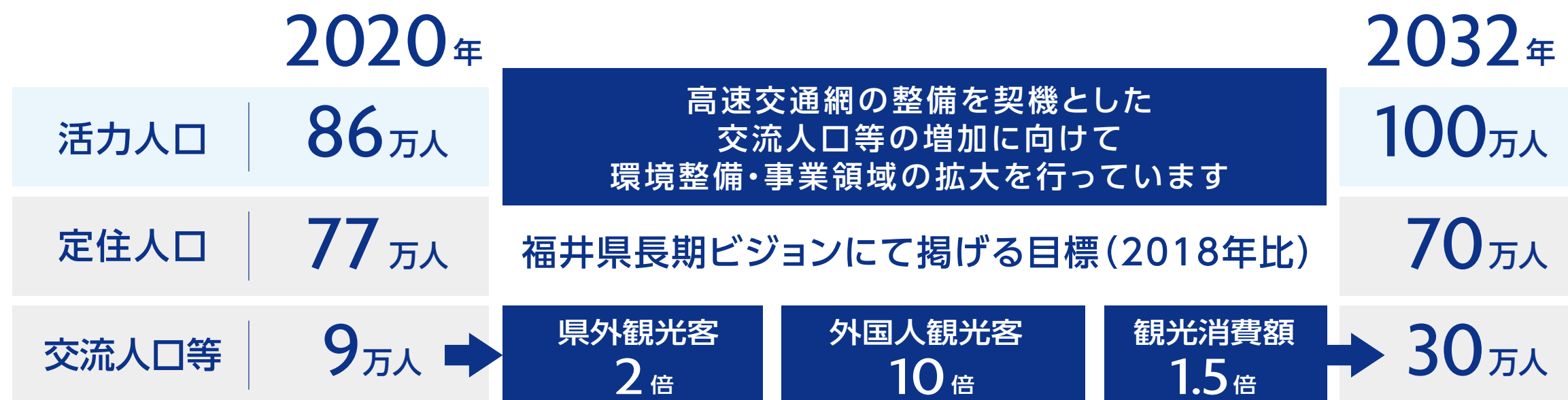
※1人あたり県民所得は県内全体の「雇用者報酬」「企業所得」「個人の財産所得」等の合計を県の総人口で割ったものです

チャレンジゴール

福井県活力人口 **100** 万人

福井県が2040年に活力人口100万人を目標に掲げるなか（「福井県長期ビジョン」）

ハード、ソフト、ネットワークを強化する取組みにも注力し活力人口100万人の早期実現を目指します



※観光庁の試算では定住人口1名＝外国人旅行者8名＝国内宿泊旅行者23名＝国内日帰り旅行者75名

交流が地域を
元気にし経済を
活性化させる

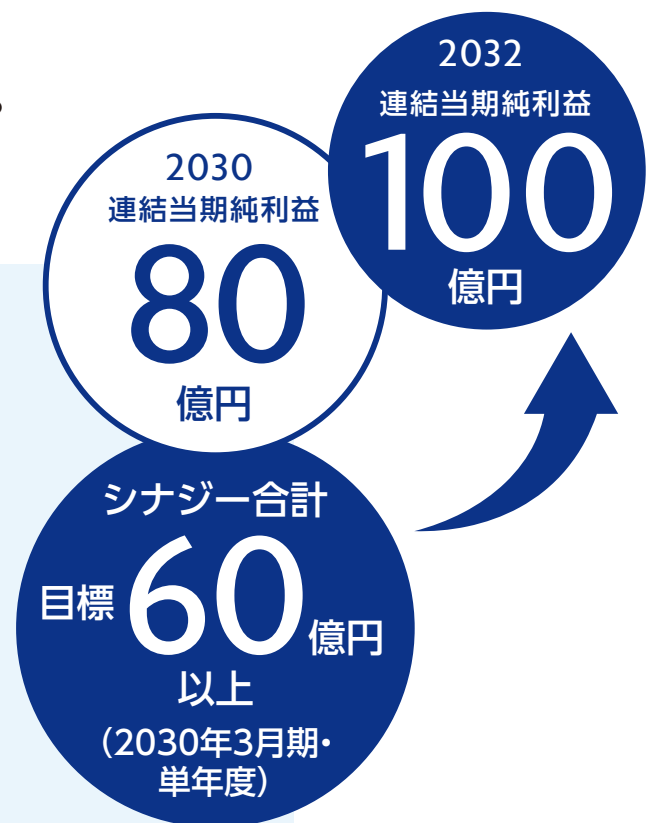
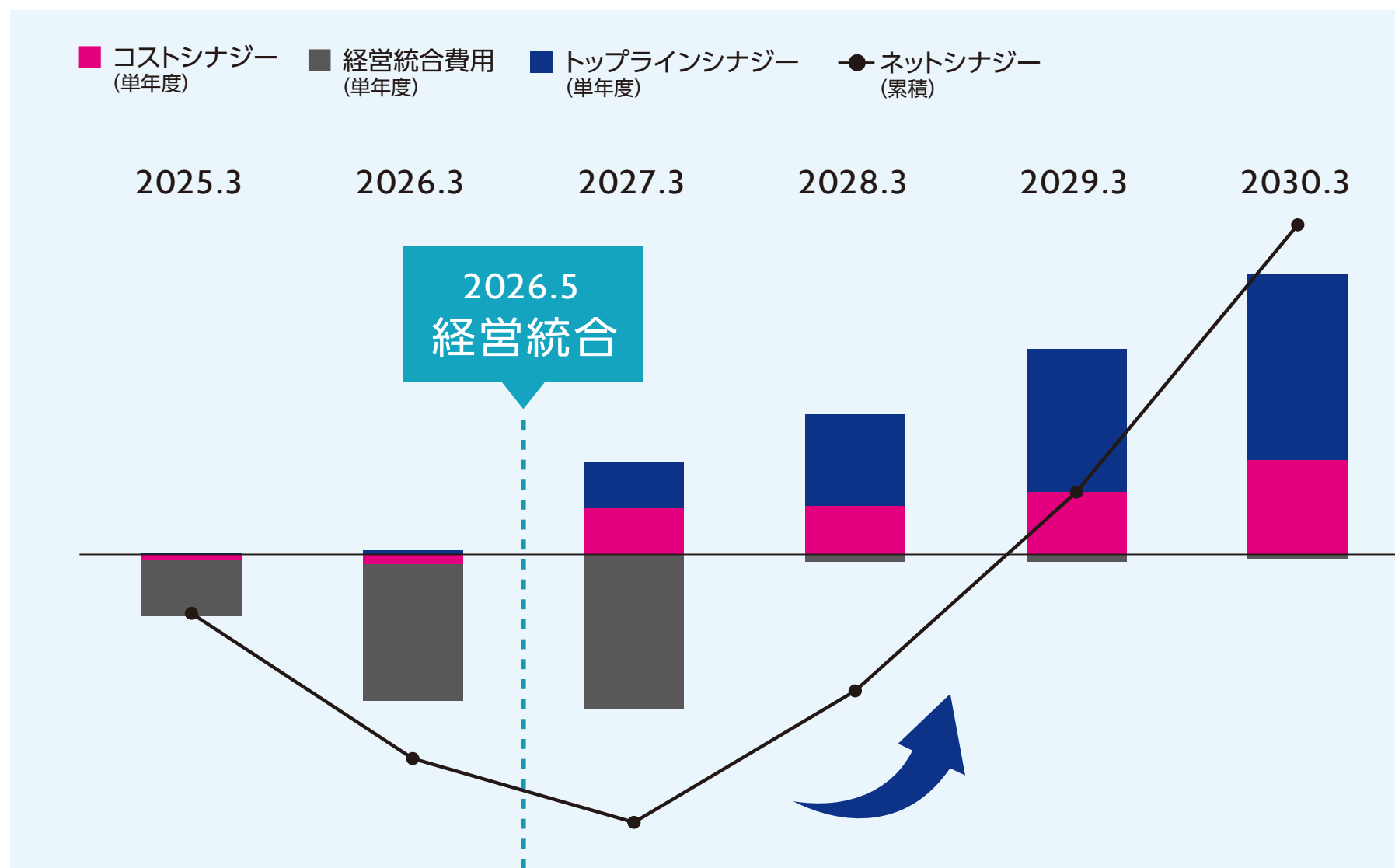
- 新幹線延伸を踏まえた環境整備
- 観光消費の促進のための物販事業
- デジタルを活用した観光客の利便性促進

チャレンジゴール

連結当期純利益 **100** 億円

福邦銀行との経営統合後、2年目には統合費用を回収し累積黒字化を見込みます。

■ 経営統合によるシナジー効果



当行グループが掲げる「地域価値循環モデル」を実現するためには、これまで以上に、地域やお客さまに寄り添い、課題発見・解決に尽力する必要があるとの認識のもと、福邦銀行と経営統合することにしました。



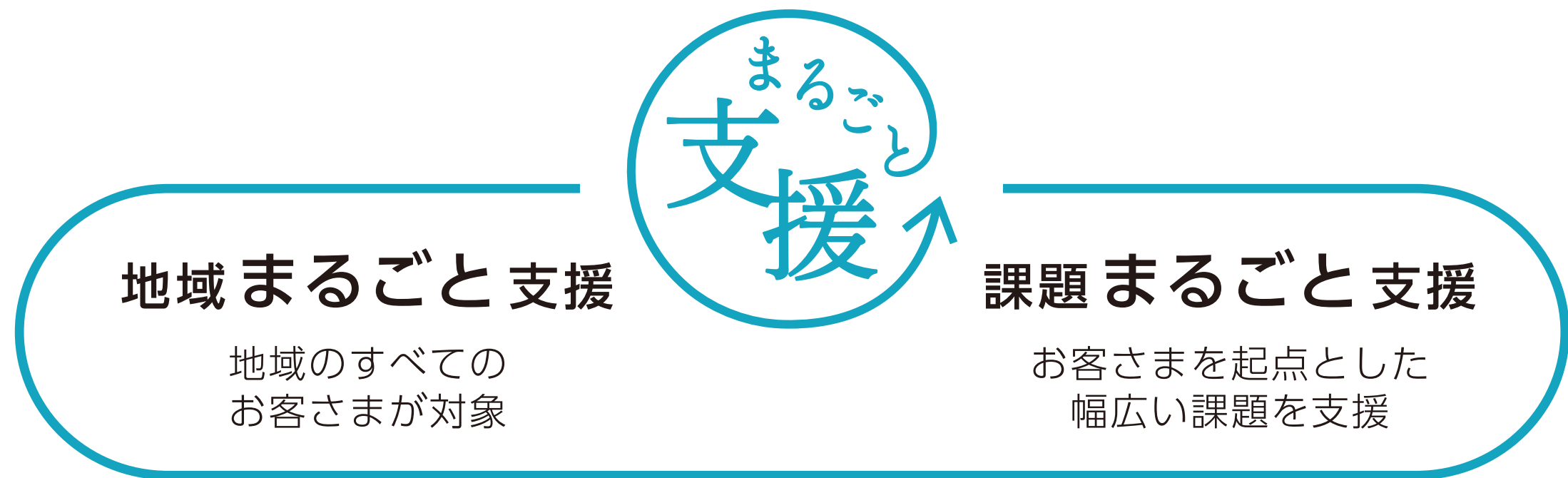
これまでの歩み

2020 . 3	地域経済の発展に向けた包括提携
2021 . 10	グループ化
2022 . 4	長期ビジョン「Fプロジェクト Vision 2032」開始
2023 . 11	経営統合に関する基本合意書の締結
2024 . 5	株式交換契約の締結
2026 . 5	1つの銀行へ

経営統合のねらい

- 1 「地域の課題解決業」としての進化
- 2 シナジー効果の最大化
- 3 ガバナンスの変革

1. 「地域の課題解決業」としての進化



地域の課題解決業としての進化

地域の魅力度の向上

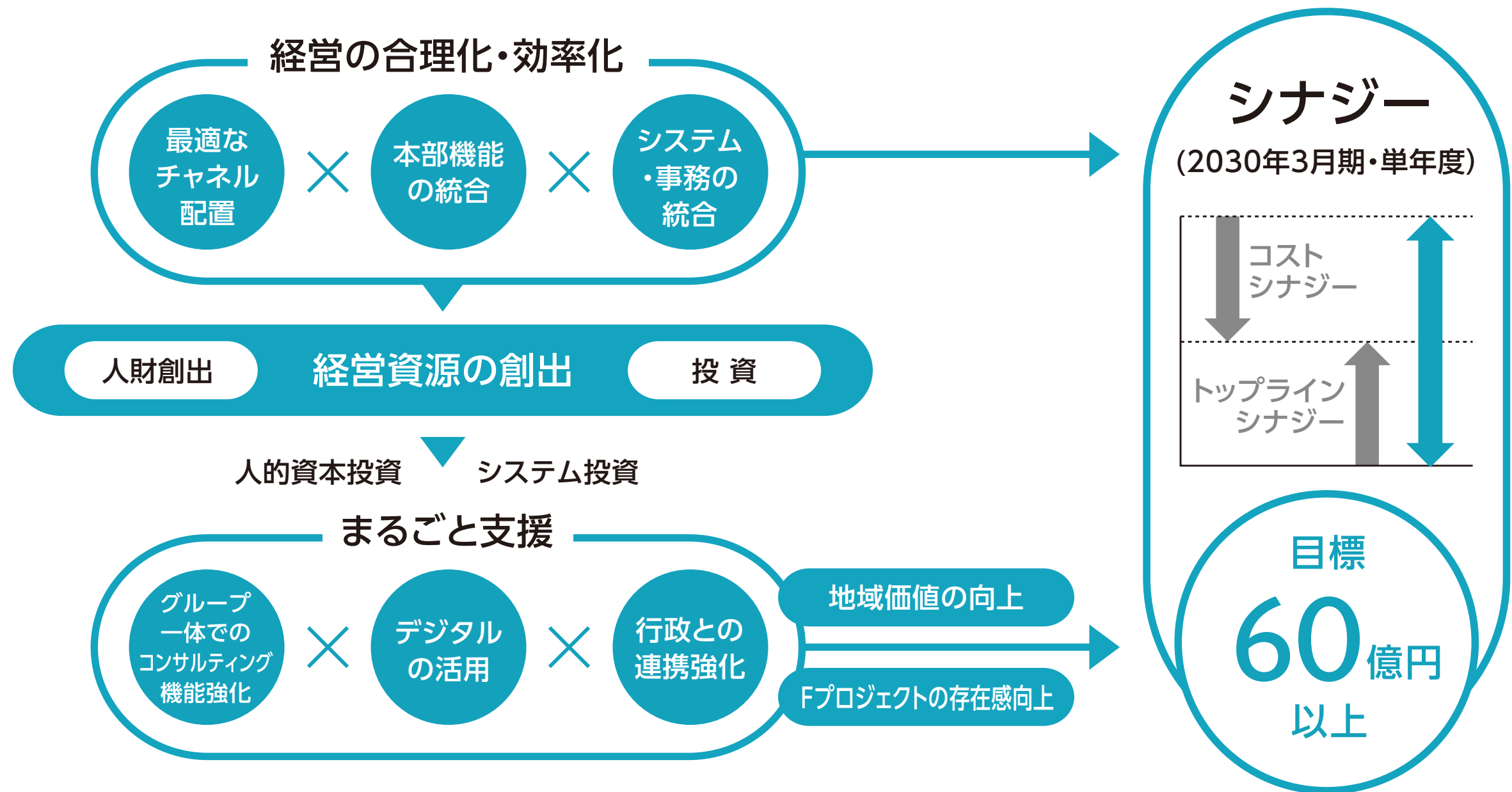
企業価値の向上

資産価値の向上

Fプロジェクトの存在感向上

地域価値循環モデルの実現（Fプロジェクト Vision 2032）

2. シナジー効果の最大化



3. ガバナンスの变革



3

経営計画



「Fプロジェクト Vision 2032」に掲げた地域価値循環モデルの実現を目指して、
中期経営計画Ⅰをスタートしています。



Fプロジェクト Vision 2032

2022.4 - 2032.3
長期経営計画

2028.4 - 2032.3
中期経営計画Ⅲ

2025.4 - 2028.3
中期経営計画Ⅱ

2022.4 - 2025.3
中期経営計画Ⅰ

長期経営計画	中期経営計画 I の戦術	中期経営計画 I のアクションプラン
ウェルビーイング実現に向けた取組み	ウェルビーイング戦術	01 役職員へのウェルビーイングの浸透
3つのドメインによる 事業展開	コンサルティング戦術(地域)	02 ネットワーク(産学官金連携)を生かした「まち・ひと・しごと」の面的支援
	コンサルティング戦術(法人)	03 伴走型支援を通じた真の経営課題の発見と解決
	コンサルティング戦術(個人)	04 ライフステージに応じたサービスの展開によるQOLの向上
	ユーザビリティ戦術(法人・個人)	05 金融インフラサービスの利便性向上とプラットフォームの構築
	ファンダメンタル戦術	06 資金運用の多様化とノウハウの蓄積
事業ポートフォリオの構築 (経営資源配分)	機能別戦術(人事)	07 戦略分野への人財配置と計画的育成
	機能別戦術(チャネル)	08 地域に根差した「ヒト×デジタル」のハイブリッドチャネルの提供
	機能別戦術(デジタル)	09 デジタル利活用による利便性・生産性の向上
	経営管理体制	10 利益・ALM・リスクの一体管理とコンプライアンス体制の高度化
	グループ体制	11 グループシナジーの最大化

アクションプラン 役職員へのウェルビーイングの浸透

当行グループでは、多様な人財が高い目標へのチャレンジを通じて自らの成長を実感し、ウェルビーイングを実感することができる企業風土の実現に向けて、人的資本経営を実践しています。

【人財育成方針】

●人事ポリシー「厳しさと温かさ」

厳しさ（銀行や職員が目指すレベル感）

- 使命感（企業理念）
- 誠実で情熱を持った行動（行動理念）
- 高い目標 ● 少数精鋭
- 成果（収益・アウトプット）
- 取り巻く環境打破

温かさ（組織運営の考え方）

- マネジメント（心理的安全性）
- 人財育成（人づくり革命）
- 人間関係（チームワーク・サポート）
- 新しいワークスタイル
- プロセス重視
- 多様な働き方（育児・介護制度）

●人財育成・研修体系

〔行内研修〕

- 階層別研修 … 各資格別に、求める役割を果たすための基本的な考え方、行動について集合研修を実施。
- 業務別研修 … 銀行の各業務について習得度合いに応じて集合研修を実施。

〔行外研修（外部トレーニーを含む）〕

- より専門的な知識やスキルを得ることを目的として、外部団体が主催する研修に職員を派遣。また、外部企業に直接職員を派遣し、外部企業で勤務するトレーニー制度も導入。

研修実績 2023年度	研修数	総時間	受講者数 (延べ人数)	満足度評価
階層別研修	48	342.8 時間	1,721 人	87.0%
業務別研修	36	356.8 時間	1,028 人	90.5%

●戦略分野への人財配置

本部機能統合や店舗数の削減により捻出した人財を戦略分野にシフトしています。

	目 標 2024年度	実 績 2023年度
コンサルティング	30 名	17 名
デジタル	20 名	13 名
新規事業	10 名	21 名
合計	60 名	51 名

※中期経営計画期間中の戦略分野人員数の純増数

人的投資額に関する指標と目標

目 標	定 義	2022年度実績	2023年度実績
2024年度までに 30%以上増加	2022年度実績と比較した以下の合計額の増加率 ①研修費用、②外部トレーニー費用、③高度人財育成費用、 ④資格取得・維持管理費用、⑤自己啓発費用	63 百万円	2022年度比 + 9.4% (69百万円)

アクションプラン 役職員へのウェルビーイングの浸透

当行グループでは、ウェルビーイングの実現のためのキーファクターを4つに分類し、「ウェルビーイング調査」の結果分析をもとに施策を実施しています。

【社内環境整備】 ウェルビーイングの実現に向けた具体的な取り組み

理念・方針

- タウンホールミーティング



組織・風土

- はせチャンネル



意欲・成長

- 1on1ミーティング



環境・処遇

- 健康経営 ● ベースアップ



2024
健康経営優良法人
Health and productivity

＜推進体制＞

頭 取
(最高健康責任者)

職員組合

専門家
(産業医)

専門家
(保健師)

担当執行役

人財開発T内
健康サポート室

コラポヘルス

健康保険組合

施策展開

福井銀行グループ職員

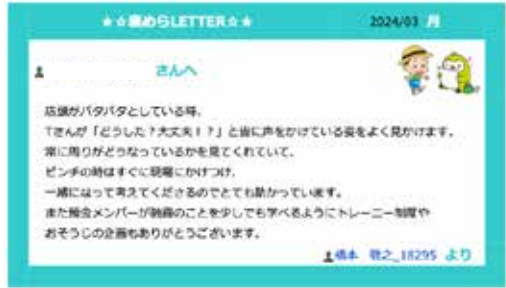
意欲・成長

- キャリア研修・考え方教育



環境・処遇

- 褒めらLETTER



環境・処遇

- 社外副業制度



ウェルビーイングの実現に関する指標と目標

指 標	定 義	目 標	2022年度実績	2023年度実績
 職員満足度	ウェルビーイング調査結果	2024年度までに ポジティブ回答60.0%以上	ポジティブ回答 45.8 %	ポジティブ回答 53.4 %
 1on1ミーティング 実施率	月1回以上上司と1on1ミーティング を実施している職員の割合	2024年度までに 80.0%以上	64.4 %	53.0 %

アクションプラン 役職員へのウェルビーイングの浸透

D&I推進における10年間のロードマップにおいて、2022年からの3年間を「意識醸成期」と位置付け、役職員のD&Iに対する理解度向上、意識改革を促進するため、セミナーや交流会などを開催しています。

【社内環境整備】ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進のための取組み

● 社外取締役との意見交換会の実施



● 福井県 鷺頭美央副知事との交流会の開催



● 職員向けパパ育休に関するセミナーの開催



管理職に占める
女性労働者の割合

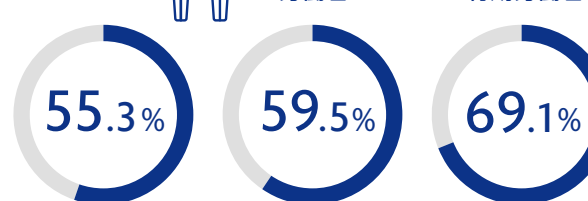


男性の
育児休業等取得率



労働者の男女の賃金の差異

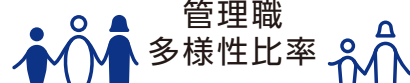
全労働者 うち正規雇用労働者 うちパート・有期労働者



プラチナくるみん
プラス認定取得



D&Iに関する指標と目標

指標	定義	目標	2022年度実績	2023年度実績
 総労働時間削減率	2021年度実績と比較した総労働時間の削減率 (正規雇用労働者+嘱託契約労働者)	2024年度までに 6.0%以上削減	2021年度比 2.8% 削減	2021年度比 2.8% 削減
 管理職多様性比率	管理職(※1)に占める以下の項目の多様性比率 ①性②国籍③年齢(※2)④勤務年数(※2)⑤中途採用者	2024年度までに 30.0%以上	27.8%	32.0%

(※1) 管理職には労働基準法上の管理監督職に加え、管理監督職の一つ手前の職階である代理職を含める (※2) 年齢、勤務年数は標準的な登用と比較して早期に登用された人数を対象とするための項目

アクションプラン ネットワーク(産学官金連携)を生かした「まち・ひと・しごと」の面的支援

北陸新幹線の県内延伸を好機と捉え、新幹線各駅周辺を中心としたまちづくり支援や地域の観光活性化支援を行っています。

まちづくり支援

北陸新幹線の福井・敦賀開業に向けて、新幹線駅周辺のまちづくりをサポート。

※提供：JRTT鉄道・運輸機構



福井駅前電車通り北地区A街区
再開発事業の
立ち上げ、
事務局の運営など
これまで8年支援



「まちづくり協議会」の
運営事務を受託。
ホテル事業者の進出を
中心的に支援



選定された事業者(SPC)に
対し、資金面や事業者紹介を
通じ強力に伴走支援

地域の観光活性化支援

当行グループの地域ネットワークを
活用し福井県内の観光地や地域資源
をつなぎ地域の観光活性化を支援。

ふくいヒトモノデザイン株式会社

ふくいヒトモノデザインプロデュース
『水ようかんサンドクッキー』



JR福井駅「おみやげ処 福井」
2024年3月
販売金額・販売数ともにNo.1

アクションプラン ネットワーク(産学官金連携)を生かした「まち・ひと・しごと」の面的支援

2022年9月に地域のDX推進によるウェルビーイング向上を目的として、株式会社福井新聞社と共同で株式会社ふくいのデジタルを設立しました。



「ふくアプリ」を通じて、福井モデルのウェルビーイング・デジタル社会を実現



内閣府より表彰

- 「Digi田(デジでん)甲子園2023」でベスト4



- 令和5年度地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」

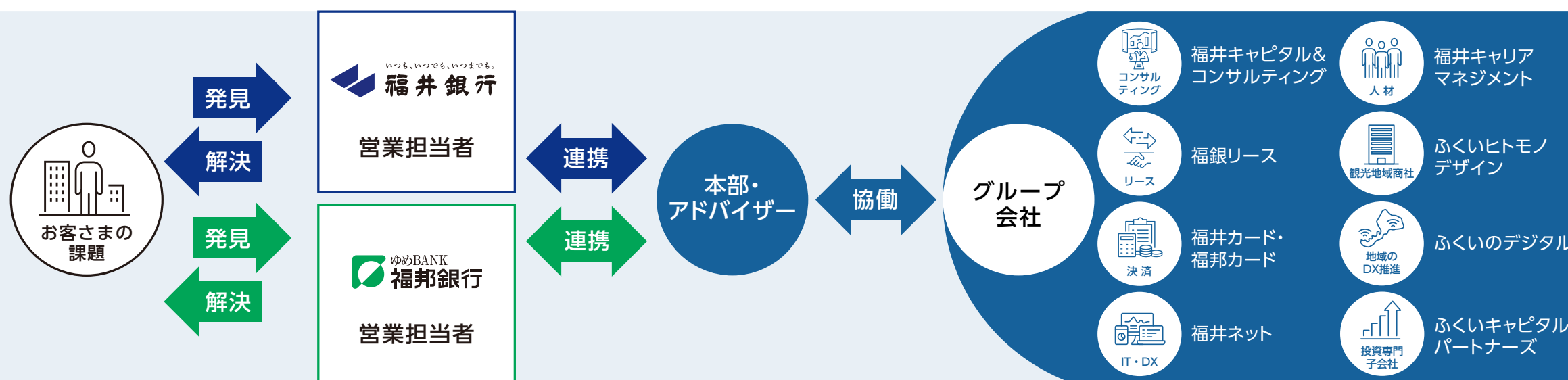


NEW 2024年3月ふくアプリで「ふくいMaaS」開始
福井県内鉄道・バスの経路検索・デジタルチケットサービスが利用可能

アクションプラン 伴走型支援を通じた真の経営課題の発見と解決

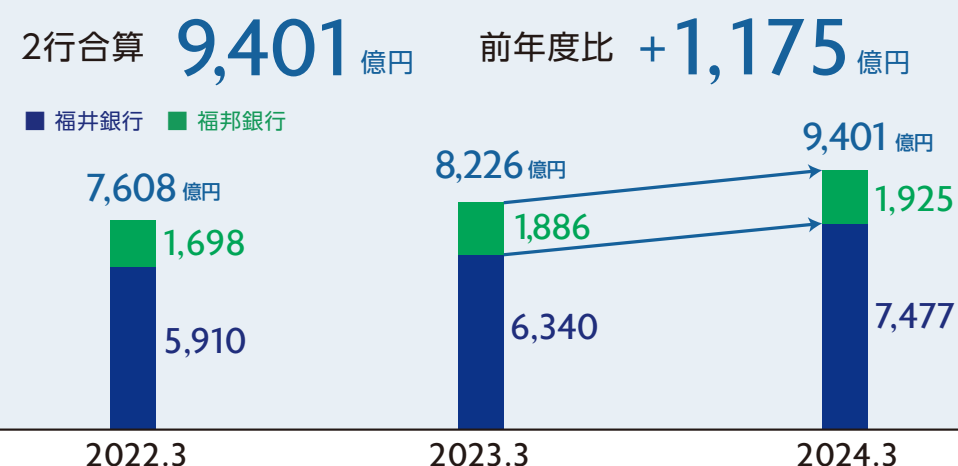
これまで一貫して取り組んできた事業性理解を土台として、
圧倒的な当事者意識でお客さまの課題の発見から解決まで長期目線で伴走します。

グループ会社の機能を結集させ地域とお客さまの課題「発見」「解決」へ



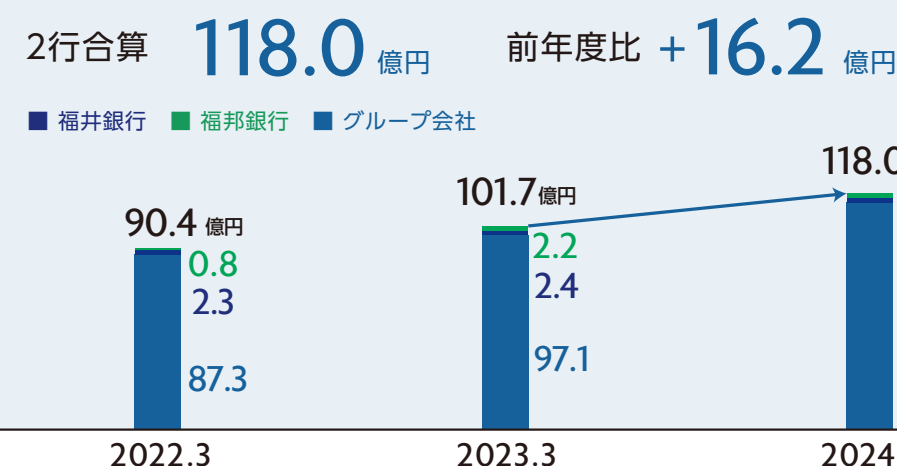
中小企業向け貸出残高

※個人向け貸出を除く



法人コンサルティング収益 + グループ会社売上高

(※1) (※2)



※1 福井銀行単体および福邦銀行単体合算 ※2 グループ間の業務委託料等を除く売上高(福井信用保証サービスを除く)

※QOL:Quality Of Lifeの略。「生活の質」の意味

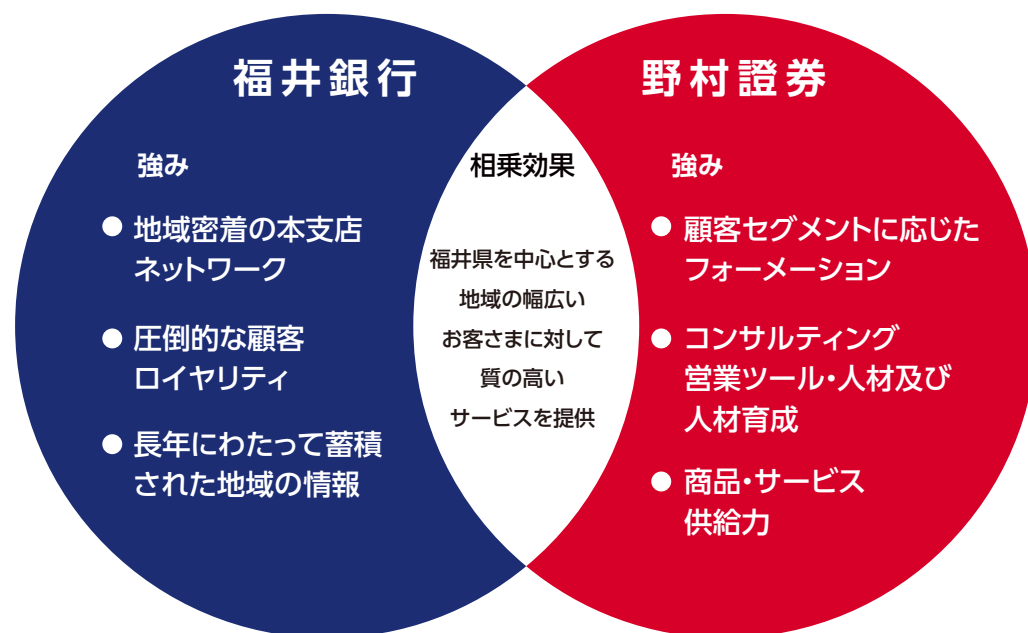
アクションプラン ライフステージに応じたサービスの展開によるQOLの向上

野村證券株式会社と金融商品仲介業務における包括的業務提携を開始し、相談拠点である「コンサルティングプラザ」を新たに開設しました。



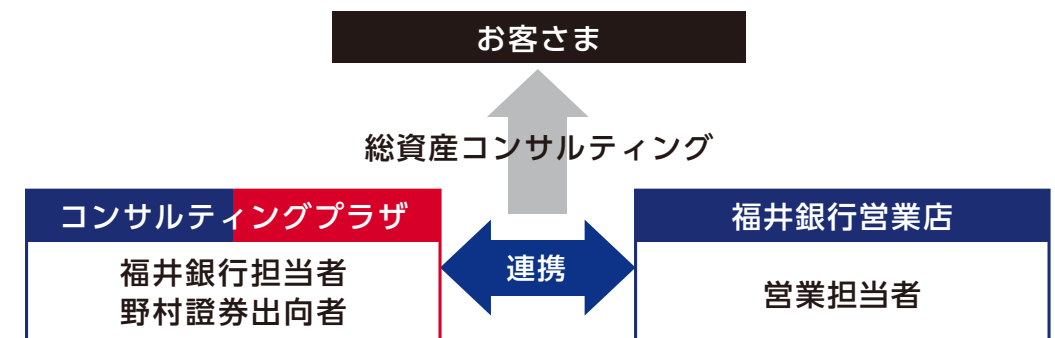
野村證券との金融商品仲介業務における包括的業務提携

スローガン ～ 福井の未来に、金融の力を。～



2023年5月 アライアンス業務スタート

- 2023年5月15日 野村證券より約50名の出向者を受け入れ福井県内4か所の専門拠点(コンサルティングプラザ)で営業を開始しています。
- コンサルティングプラザと福井銀行営業店が連携し「総資産コンサルティング」を展開しています。



2028年3月期までに
両社合計の
預り資産残高を

5,000 億円に

〈 預り資産残高 〉

約 3,500 億円 → 約 5,000 億円

2023.3 月期

2028.3 月期

アセットコンサルティング 手数料推移

※福井銀行単体



アクションプラン 金融インフラサービスの利便性向上とプラットフォームの構築

お客さまの利便性向上のため、無担保ローンWEB完結サービスや福井銀行アプリ・セブン銀行ATMの機能拡充により、非対面サービスの拡充を進めています。

無担保ローンWEB完結サービス

- 2023年5月より無担保ローンWEB完結サービスの取扱開始。申込みから契約まで来店不要。



NEW

福井銀行アプリ・セブン銀行ATMの機能拡充!

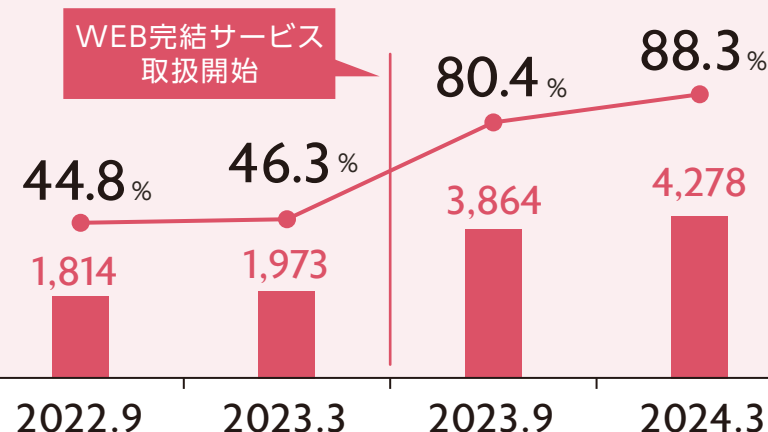
- 通帳・キャッシュカード・印鑑の「紛失・盗難」「発見」「再発行」の手続きが可能に。
- 住所・電話番号・勤務先の変更が可能に。



- 住所・電話番号の変更が全国のセブン銀行ATMでお手続きできます。
※セブン銀行新型ATM(第4世代)でお手続き可能です。

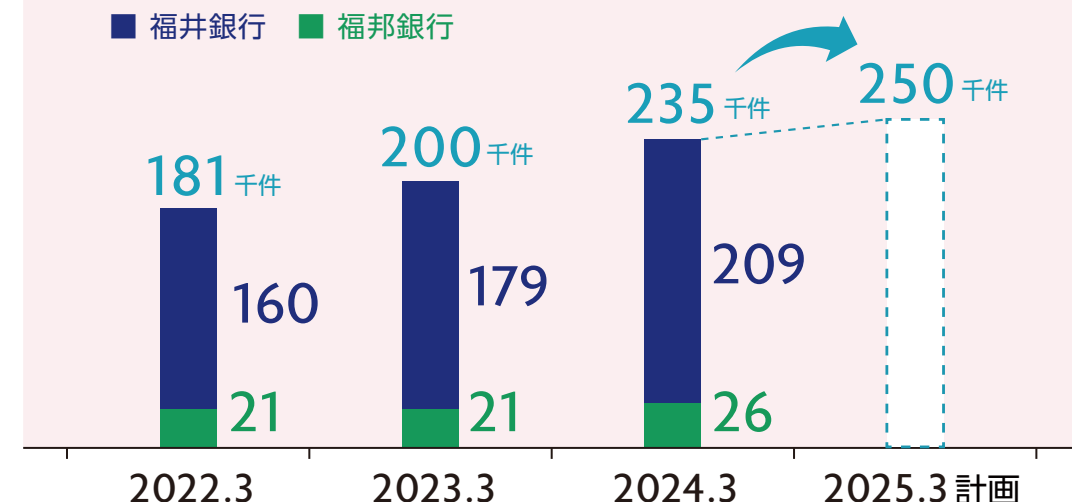
無担保ローン申込件数の推移

■ 非対面受付件数 ● 非対面での受付割合



インターネットバンキング・アプリ登録先数の推移

■ 福井銀行 ■ 福邦銀行



アクションプラン 資金運用の多様化とノウハウの蓄積

当行グループは、預金業務、貸出業務に加えて有価証券運用にも長年取り組んでいるほか、新しいファイナンスの領域にも取り組んでいます。

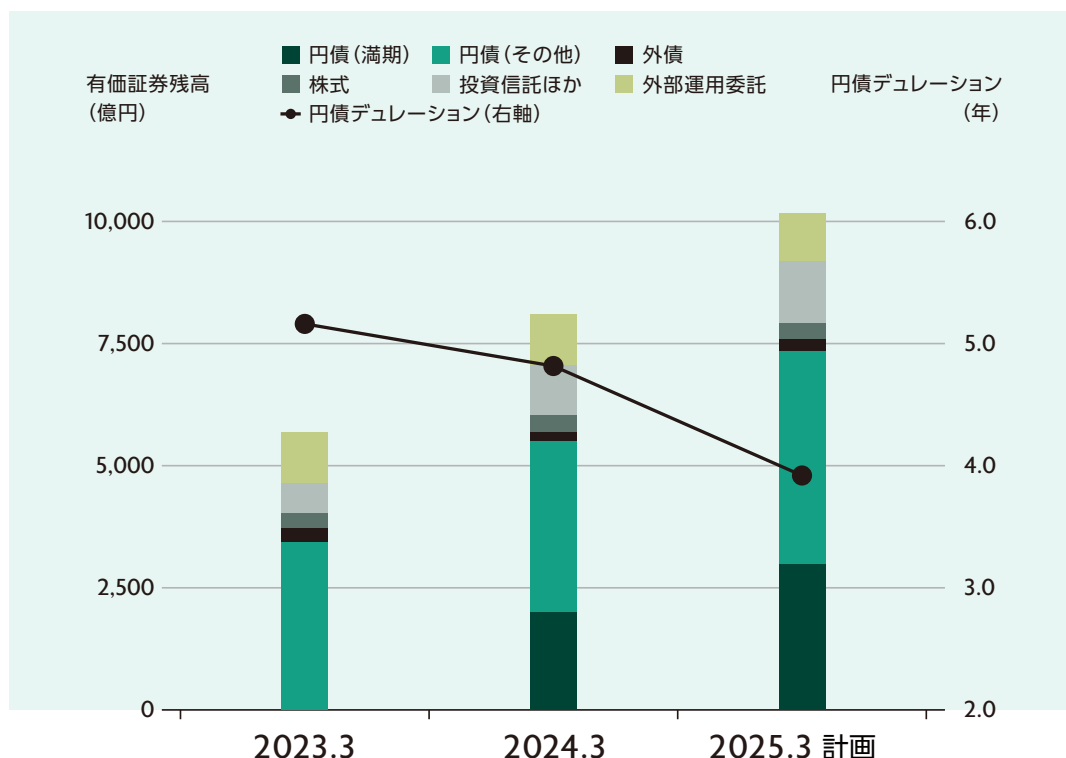
これらを通して得られる情報やノウハウを中長期的に地域やお客さまへのソリューションや当行グループのビジネスモデル進化につなげていきます。

有価証券運用

金利情勢に応じた債券ポートフォリオの構築や外部の専門家知見も取り入れたグローバルな運用（外部運用委託）を行っています。

● 注力投資分野

円債、外債（投信含む）／ 外部運用委託

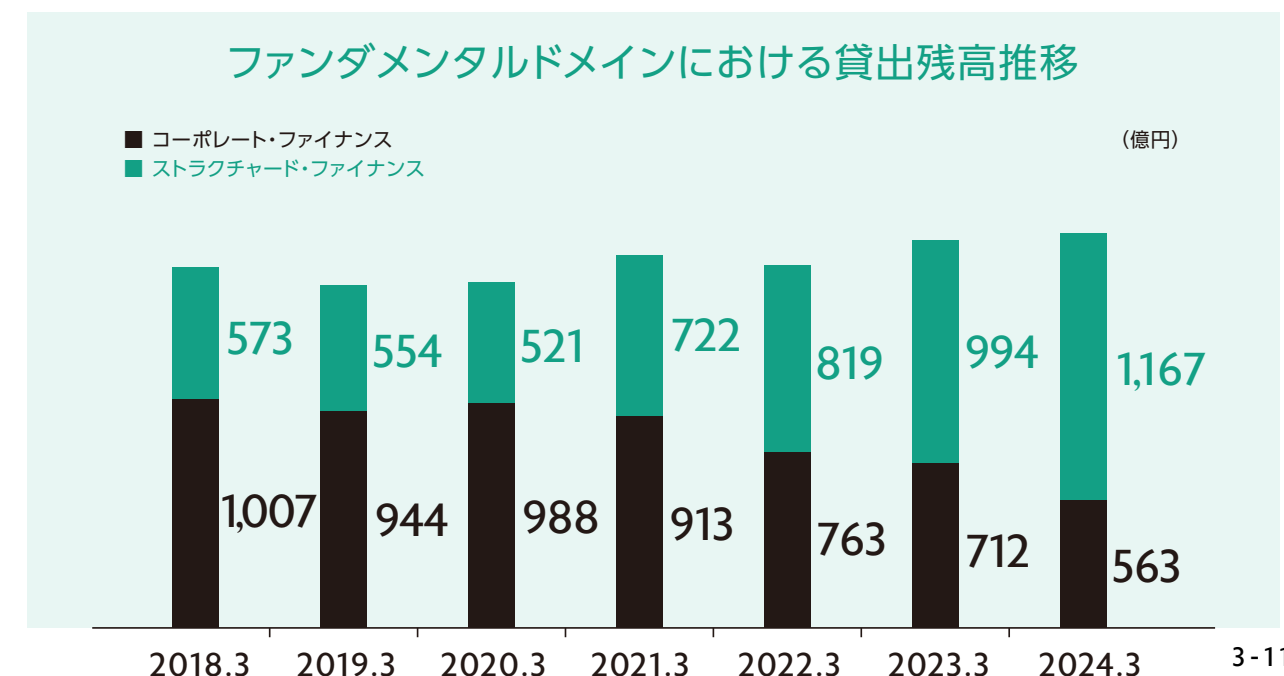


ストラクチャード・ファイナンス

2024年6月に専門部署として「ストラクチャードファイナンスチーム」を新設し、高度化する金融ニーズへの対応及びリスク管理体制強化を行っています。

● 注力投資分野

LBO・MBO ／ プロジェクト（再生エネルギー等）
／ 不動産（ノンリコースローン）

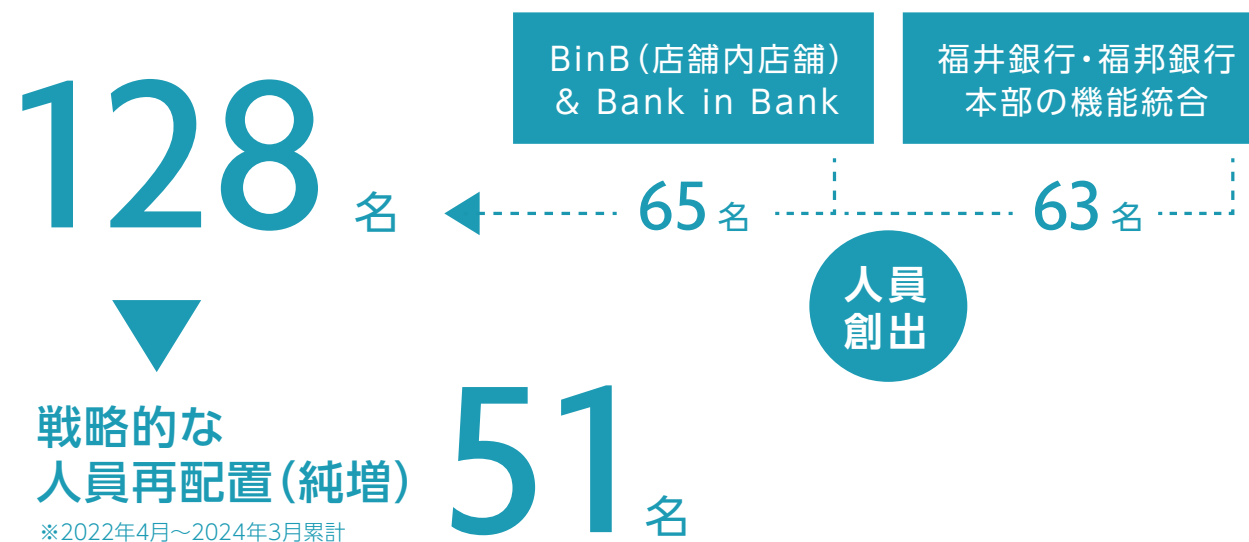


アクションプラン 戦略分野への人財配置と計画的育成 / 地域に根差した「ヒト×デジタル」のハイブリッドチャネルの提供

お客さまの利便性を確保しながら、福井銀行および福邦銀行の店舗等・ATM網の再編を進めると同時に、両行の本部機能の統合を進め、これらにより創出した人財からコンサルティング分野や新事業分野へ戦略的に人員配置し、コンサルティング強化につなげています。

BinB(店舗内店舗)および本部機能統合による人員創出

※2022年4月～2024年3月累計



戦略的な人員再配置(純増)

コンサルティング 17名

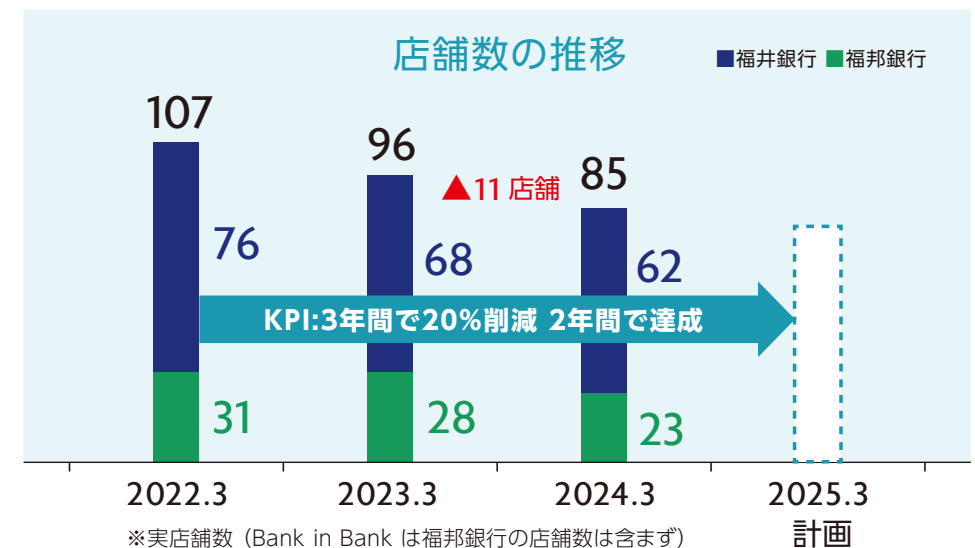
(福井キャピタル&コンサルティング
福銀リース・福井カード
福井銀行本部アドバイザー・パートナー)

デジタル 13名 (福井銀行本部)

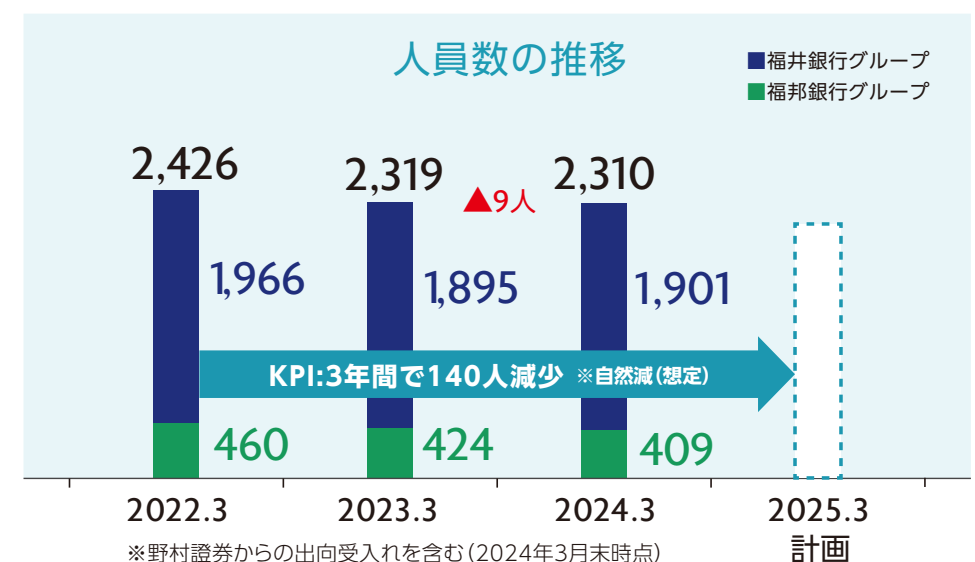
新事業 21名

(福井キャリアマネジメント
ふくいヒトモノデザイン
ふくいのデジタル
ふくいキャピタルパートナーズ)

店舗数の推移



人員数の推移



アクションプラン デジタル利活用による利便性・生産性の向上

データ利活用による生産性向上と付加価値創造によって、地域のDXを牽引する存在を目指していきます。

STEP 1 データ分析プラットフォーム「KI」の活用 ▶ 浸透とタレントの発掘

- データ利活用の社内浸透を目的に、2023年4月よりキーエンス社のデータ分析プラットフォーム「KI」を導入



～店頭取引の要因ツリー分析(例)～

STEP 2 予測AI：開発の内製化 ▶ アジャイルな開発・活用を目指して

- フイックロス・デジタル社と共同で各種予測AI※を開発
- ※来店客数予測AI、預金・貸出金残高予測AI等



～来店客数予測AIを活用した来店客数予想カレンダー(例)～

STEP 3 生成AI：専用環境の導入 ▶ 生産性向上と付加価値創造へ

- Microsoft社「Azure OpenAIサービス」を使った福井銀行専用生成AIツール「Asis-AI」を構築し、2024年3月より本部での試行運用を開始



STEP 4 情報発信 ▶ 注目される存在へ

- FIT展(金融国際情報技術展)での講演やマスコミ向け紹介に積極対応
- 2024年8月に「DX認定事業者」の認定取得



～FIT2023東京での講演～

項 目	KPI	2024年3月期(実績)	2025年3月期(計画)
↑ 結 果	中小企業向け貸出残高	9,401 億円	(※1) 8,000 億円
	観光・まちづくり関連支援件数	340 件	(※2) 300 件
	SDGs・脱炭素関連支援件数	441 件	(※2) 500 件
	店舗数	△20 %	△20 %
	ATM台数	△28 %	△25 %
	地域への人財供給(自然減)	116 名	(※2) 140 名
行 動	インターネットバンキング・アプリ登録先数	23 万件	(※1) 25 万件
体 制	戦略分野への人財配置	+51 名	+60 名
	コンサルティング人財投資	+57 百万円/年	+100 百万円/年
	デジタル投資	+534 百万円/年	+500 百万円/年

注 +△表記はすべて2022年3月末比 ※1:2025年3月末時点 ※2:2022年4月～2025年3月末での累計 ※3:コンサルティング・デジタル及び新規事業分野への人財配置

連結当期純利益※

2025年3月期目標 **40** 億円以上

2024年
3月期実績 **37.1** 億円

※親会社株主に帰属する当期純利益 (目標進捗率:92.9%)

連結自己資本比率

2025年3月末目標 **7.0** %以上

2024年
3月末実績 **7.41** %

(目標比: +0.41ポイント)

連結コアOHR

2025年3月期目標 **77.0** %以下

2024年
3月期実績 **80.1** %

(目標比: 3.1ポイント未達)

連結ROE

2025年3月期目標 **3.0** %以上

2024年
3月期実績 **2.87** %

(目標比: △0.13ポイント)

4

企業価値向上に向けた当行の取組み

現状分析と対応策

(2024年3月期基準)

$\text{PBR} = \frac{\text{株 価}}{\text{1株あたり純資産額}}$ (株価純資産倍率)	当行 0.33倍	プライム市場平均 1.4倍	うち地方銀行 0.42倍
$\text{ROE} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$ (自己資本利益率)	当行 2.87%	プライム市場平均 9.16%	うち地方銀行 4.02%

(当行調べ)

企業価値や株価を評価する代表的な指標であるPBR、ROEの当行の数値は相対的に低位な状況にあります。それぞれの指標の分母である自己資本(純資産)は銀行としての信用の根幹であり、充実を図りつつ、株価の上昇に向けた取組みや収益力の強化が重要であると認識しております。

対応策(PBR)

「地域価値循環モデルの実現」に対してのステークホルダーの理解を高める

長期ビジョン「地域価値循環モデルの実現」に向けた取組みによって当行の企業価値が向上することへの理解を高めるための対話を積極的に行います。(IR,SRの充実)

当行グループの今後の成長ストーリーに対するステークホルダーの理解を高めることが、将来的な株価の上昇につながるものと考えています。

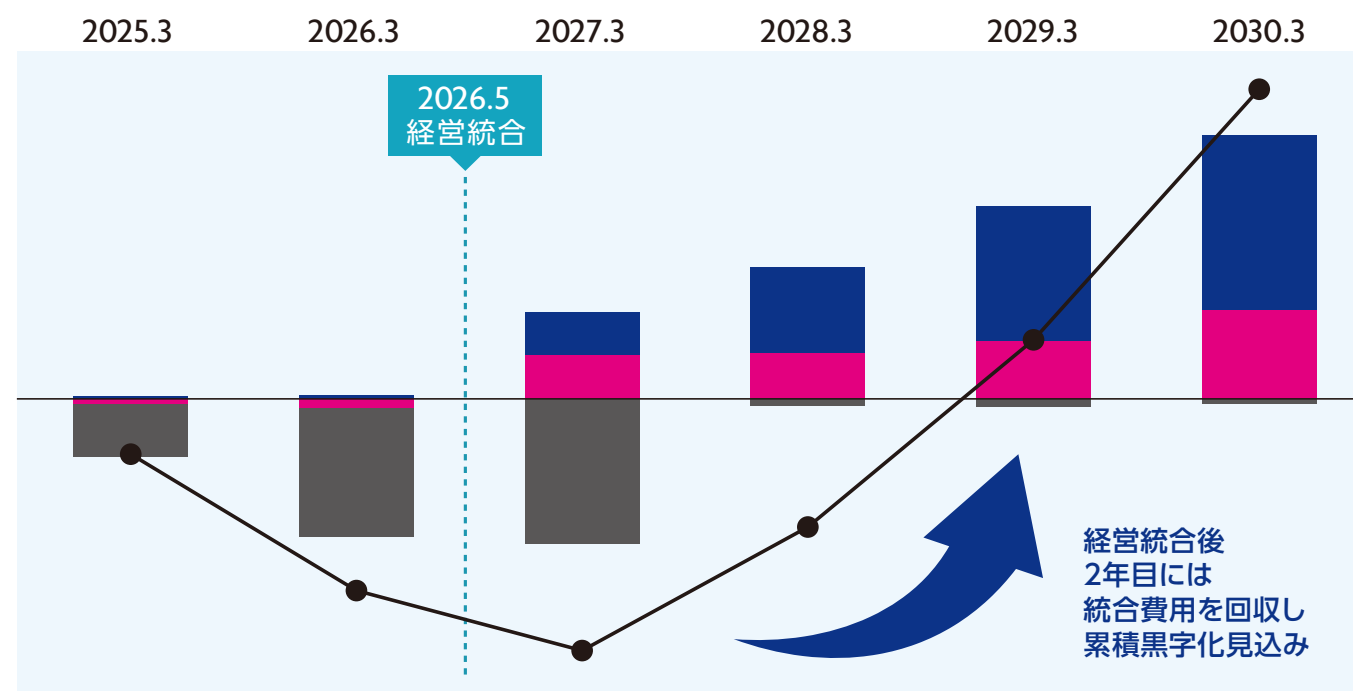
対応策（ROE）

自己資本を増強しながらの収益力強化 〈収益力強化〉

収益力強化については、これまでの取組みに加え、経営統合によるシナジーを最大化することで、2030年3月期連結当期純利益80億円、長期ビジョンのチャレンジゴールである2032年3月期連結当期純利益100億円を目指します。

経営統合によるシナジー

■ コストシナジー（単年度） ■ トップラインシナジー（単年度）
■ 経営統合費用（単年度） ● ネットシナジー（累積）



2030年3月期の経営指標等の見通し

	2024.3	2030.3
連結当期純利益	37.1 億円	80 億円以上
連結自己資本比率	7.41 %	9 %以上
連結ROE	2.87 %	5 %以上
連結コアOHR	80.1 %	50 %台

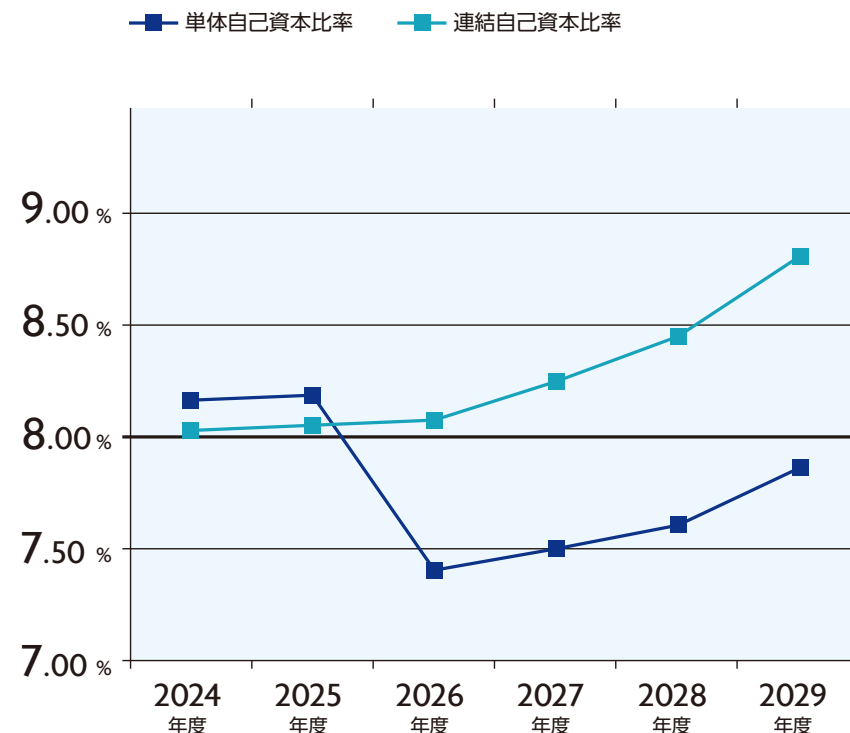
チャレンジゴール
2032年3月期 連結当期純利益 **100** 億円

対応策（ROE）

自己資本を増強しながらの収益力強化 〈自己資本増強〉

政策保有株式の縮減、グループ自己資本の集約によって自己資本の充実を図ります。

経営統合前後の自己資本比率 （連結・単体）

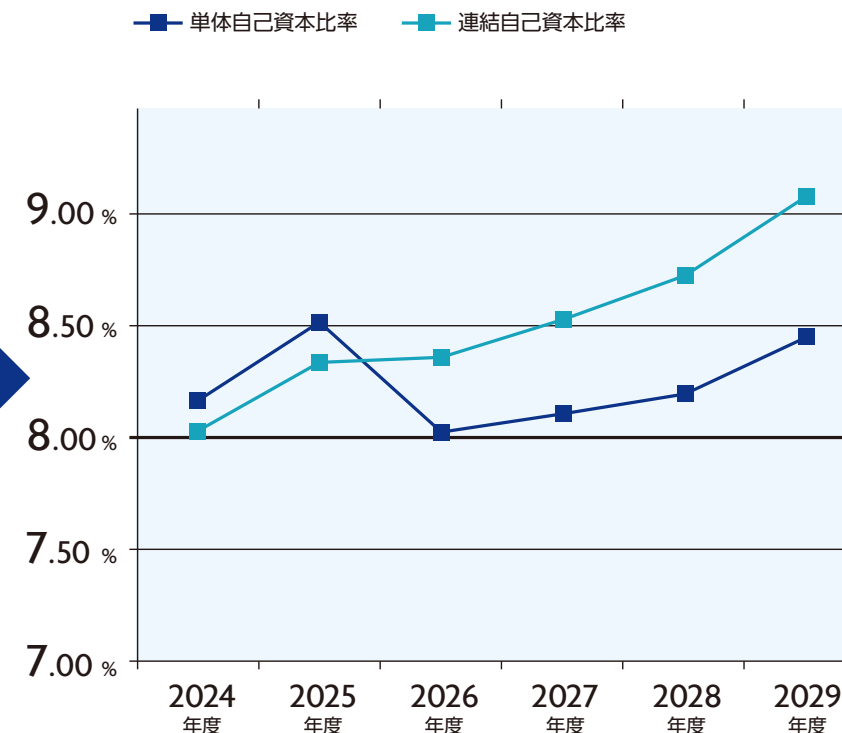


2026年度（2026年5月）の福邦銀行との合併で自己資本比率は低下。

自己資本充実に 向けた取組み

- 1
政策保有株式の縮減
2027年3月末までに
純資産対比20%未満への
縮減を目指す。
- 2
グループ自己資本の集約
子会社に蓄積された
純資産を
福井銀行に集約。

増強策取組み後の自己資本比率 （連結・単体）



グループの中核である福井銀行の自己資本を安定的に高めながらシナジーを早期実現。

5

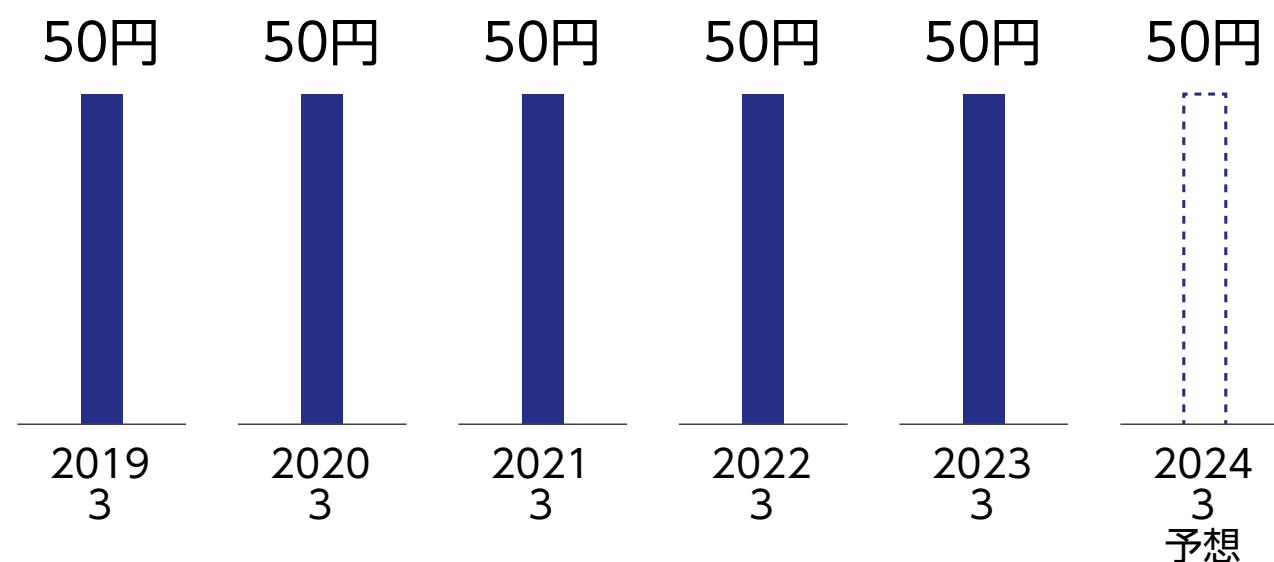
株主還元



配当方針(福井銀行)

- ▶ リスクに見合った十分な自己資本を確保しつつ業績を上げ、安定的・継続的に配当を行うことに加え、業績に連動した利益配分を実施することを基本方針としています
- ▶ 1株当たり年間50円の安定配当に業績連動配当を合わせた配当性向を20%程度とすることを目途としています
- ▶ 内部留保金につきましては、株主価値の向上につなげるべく、システム等のインフラ整備・強化に投資し、強固な経営体質の構築に努めてまいります

1株あたり配当金



株主優待制度

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された当行株式300株以上保有の株主さまを対象とさせていただきます。

株主優待制度の内容

地元福井県の特産品または社会貢献活動に対する寄付から保有株式数に応じて選択していただきます。

保有株式数	優待品または寄付
300株以上1,000株未満	3,000円相当
1,000株以上	5,000円相当

※優待品の例 (写真はイメージです)



参 考 資 料

サステナビリティへの取り組み

持続可能な地域社会の実現に向け、地域やお客さま、職員が直面している課題の解決に貢献するためにサステナビリティに関する重要事項(マテリアリティ)を定め、気候変動や人的資本経営などの具体的な取り組みを実施しています。

重要課題(マテリアリティ)	具体的な取り組み	関連するSDGs
E (環境) 	TCFDへの対応	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を
	環境保全の強化	12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
S (社会) 	ウェルビーイングの実現	3 すべての人に健康と福祉を 5 ジェンダー平等を實現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に
	事業成長や資産形成の実現 活力にあふれた地域の実現	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
G (ガバナンス) 	Fプロジェクトの推進	17 パートナリシップで目標を達成しよう

気候変動に関するリスク及び機会に対する主な取組内容

地域の脱炭素化支援

サステナビリティの取組みは地域全体をいかに巻き込んでいくかにかかっています。環境省中部地方環境事務所との連携協定を軸に、福井県内の自治体等とそれぞれの地域課題解決にあった連携をスタートさせています。



2023年12月21日、環境省中部地方環境事務所と、「脱炭素及びローカルSDGsの実現に向けた連携協定」を締結しました。



お客さまの脱炭素支援

当行グループでは、お客さまの脱炭素経営をサポートするために、状況に応じたソリューションを提供しています。



<ふくぎん> サステナブルローンの取扱開始

<ふくぎん> グリーンローン

<ふくぎん> サステナビリティ・リンク・ローン

お客さまのカーボンニュートラルやSDGs・ESGへの取組みを資金面からもサポートしています。

SDGs・脱炭素関連
支援件数

2022年4月～
2024年3月累計
(2行合算)

441件

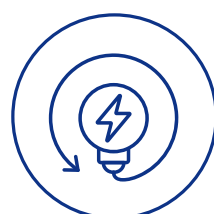
当行グループのCO₂削減の取組み



消費電力の
再エネ化



新店舗の
ZEB化



高効率機器の
導入



環境対応車の
導入

2024年5月13日に春江支店を新築移転し、一次エネルギー消費量を75%削減する「Nearly ZEB (ニアリー・ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」建築を採用しました。また、金沢支店・春江支店の営業車の一部に電気自動車を導入しています。



環境保全の強化

森林整備活動やペーパーレス化の推進などにより、環境保全の強化を図っています。

森林整備活動

福井県が進める「企業による森づくり」活動に賛同し、2013年度より毎年、「ふくぎんの森」づくり活動と称して、役職員による森林整備活動を実施しています。森林整備活動を通じ、自然環境の維持と環境保全に対する意識の向上を図っています。



ペーパーレス化の取組み

当行のDX活用による業務効率化ならびに既存業務や備品の見直しによる紙資源の削減に努めています。



活力にあふれた地域の実現

ノーマライゼーションへの取り組み

かすみが丘学園

1965年の設立準備委員会発足以来、役職員の派遣といった人的サポートを継続し、学園の運営に関わってきました。今後も福井銀行は地域金融機関として、ともに生きる社会をより良いものにしていく取り組みを継続していきます。



ユニバーサルマナー研修

すべてのお客さまに対し適切で均一なサービスをご提供する取組みの一環として、ユニバーサルマナー研修を実施しています。



認知症サポートへの取り組み

当行グループは、2007年に福井県内の民間企業として初めて役職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。以降も、自治体や地域の専門家と連携し、認知症に関する勉強会やロビー展を開催しています。



■ 認知症バリアフリー宣言

地域共生社会の一員として、認知症に対する理解を深め、認知症の方やそのご家族が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献すべく、認知症バリアフリーに取り組むことを宣言しています。



地域の魅力向上に向けた取り組み

ふくジェンヌ+

福井県の観光活性化を目的としたプロジェクトチーム「ふくジェンヌ+」が、Instagramやオリジナルガイドブックで、地元だから知っている福井の魅力を発信しています。



地域やお客さまと一体となった取組み

特殊詐欺への対応

お客さまの大切なご資産を金融犯罪からお守りすべく、アンケートを使用したお客さまとの会話や警察と連携した啓蒙活動を行っています。



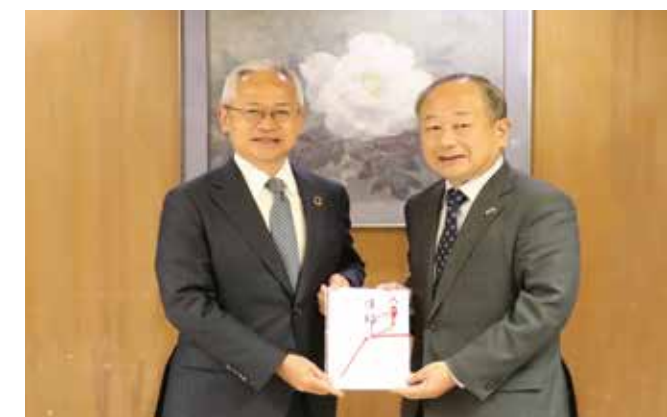
金融経済教育

教育機関への講師派遣による金融経済講座の開催や、職場見学、当行職員との座談会等による金融知識の普及、啓蒙活動を通して、地域の未来を担う人材育成のお手伝いに取り組んでいます。



福井銀行教育福祉財団

当行の創立者である市橋保治郎の創業理念と報恩感謝の精神を引き継ぎ広めていくために、青少年育成の場である学校教育や、福祉団体等に対する助成活動を実施しています。



2023年11月 目録贈呈式(福井県庁にて)

地域スポーツのチーム・イベント応援

地域のみなさまとともに、夢や楽しみを与えてくれる地元スポーツチームや地域のスポーツイベントを応援し、スポーツによる地域の活性化に貢献しています。



ふくい桜マラソン2024 ボランティア参加

- ▶ 事前に株式会社福井銀行の許可を得ることなく本資料を転写・複製し、または第三者に配布することを禁止します。
- ▶ 本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された事項の全部または一部は、予告なく修正・変更されることがあります。
- ▶ 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、
経営環境の変化等により、実際の数値と異なる可能性があることにご留意ください。

〈本資料に関するお問い合わせ先〉

株式会社福井銀行 経営企画グループ ブランド戦略チーム

TEL:0776-25-8004

